

支え合うまち小松島

社協だより

小松島地区社会福祉協議会
 仙台市青葉区小松島4-7-1
 (小松島コミュニティセンター)
 TEL: 022-274-6181

地区社会福祉協議会の取り組みについて

小松島地区福祉協議会 会長 菅原 勲

いつも福祉活動に協力を頂き誠にありがとうございます。3月8日、令和6年度「地区社会福祉協議会の取り組みについて」仙台市社会福祉協議会青葉区事務所 主事 漆田 勇樹氏のご指導を頂き福祉懇話会を開催しました。内容は 1. 社会福祉協議会について 2. 小地域福祉ネットワーク活動について 3. 福祉委員について のご指導がありました。

社会福祉協議会とは地域福祉の推進を図ることを目的とする団体で民間組織としての自主性と、地域住民や社会福祉関係者に支えられた公共性をもった民間の非営利団体。地区社会福祉協議会と住民に身近な組織として、地域の方々の参画により組織されてる任意団体です。

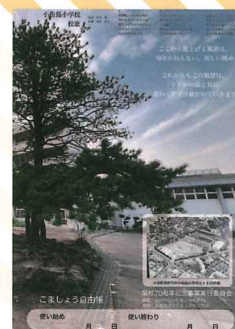
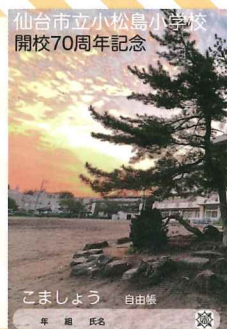
地域の福祉課題を民生委員や町内会、ボランティアなど関係団体の協力を得ながら小地域福祉ネットワーク活動などの事業を地域の実情に応じて取り組んでいます。小地域福祉ネットワーク活動の基礎的活動として安否確認活動(見守り、声がけ)研修会、連絡会議の開催、広報活動、社協だよりの発行(年2回)、生活支援活動、サロン活動、地域住民の交流・つながりの場作り(高齢者・子育て)。

福祉委員の役割 1. 無理せず、できる範囲での活動 無理のない範囲で活動しましょう。2. 相手の声に耳を傾ける、相手の話を聴いて寄り添いましょう。本人ができない部分の手助けをしましょう。3. 日頃からつながりを大切にしましょう。4. 「一人で抱え込まないように」みんなで情報を共有し、協力を得ながら活動する。5. 「秘密は守ろう」活動の中で知った情報は口外しないようにしましょう。6. 「活動を楽しむこと、楽しめる活動を」福祉委員自身が楽しむことで、笑顔の輪が地域に広がっていきます。



小松島小学校 開校70年

令和6年小松島小学校は開校70周年を迎えました。おめでとうございます。
 今後の発展をお祈り申し上げます。



75歳以上高齢者の方のアンケートについて

小松島社会福祉協議会企画委員会

地域の福祉活動について、日頃からご協力いただき感謝申し上げます。

小松島地区社会福祉協議会の中に企画委員会があり、地区社会福祉協議会の運営企画を行っています。企画委員会には会長、副会長、町内会長、仙台市福祉協議会青葉区事務所、小松島地区が関連する3地域包括支援センター（小松島、台原、花京院）、地域福祉委員が集まって地区社協の活動について検討しています。

これまで、高齢者の方を対象にした季節毎の留意事項について東北高校漫画部にイラストをお願いしたパンフレット、地域の防災マップ等を作成してきました。

7年度は小松島地域にお住まいの75歳以上の高齢者約千人超の方を対象にしたアンケートを実施することにしました。これまで十年以上前に一部の福祉単位ではアンケートを実施したことがありましたが、小松島地区としてのアンケートは初めてだと思います。

地域の高齢者の方が増え、福祉の課題を探る上でも地域の実態を知ることは重要だと思います。世帯の状況、介護サービス利用状況、生活上の支障、地域とのつながり等について調査を行ない、今年2月から配布を開始していますが、対象の方が多いため、時間がかかると思います。すでに提出いただいている方もいらっしゃいますが、ご協力に感謝申し上げます。集計結果につきましては、統計として処理し、地区社協活動の参考にすると共に、行政や地域包括支援センターとも情報を共有化し、今後の地域福祉懇話会でも発表して行きたいと思っています。

小松島児童館子育てサロン

ほっとひといき

ママのおしゃべりティータイム

今年度の小松島児童館での子育てサロン「ほっとママ」は5月に明治さんの食育相談から始まりました。6月は乳幼児親子の行事「おたままつり」が開催され、大変盛り上がりしました。7月は講師の先生とリズム遊び、親子で楽しく体を動かしました。9月明治さんの防災についてのお話や工作コーナー。災害への心構えや備蓄品について学びました。10月、支倉保育所の先生による親子のふれあい遊びや絵本の読み聞かせ、11月は保健師さんによる感染症のお話、12月は大人気カール保育園のカール先生がサンタさんになってクリスマス会をしてくれました。1・2月は悪天候もあり、1～2組の参加でしたがお正月遊びや3B体操、3月はママさんグループピョピヨ隊による素敵な演奏会がありました。

「ほっとママ」は来年度も児童館スタッフと楽しいイベント企画中です。たくさんの親子さんたちの参加をお待ちしています！





家庭での火災予防について



青葉消防署小松島出張所 所長 井上 紀久

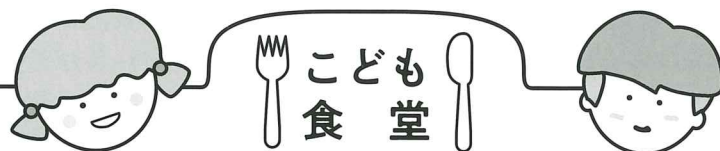
皆様におかれましては地域福祉の推進に向けた様々な取組みにご尽力いただき、感謝申し上げますとともに、日ごろから仙台市の消防行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、昨年、仙台市では247件の火災が発生しており、出火原因の上位3つは、「こんろ【35件】」、「放火(疑い含む)【35件】」、「電気機器【24件】」でした。なお、「こんろ」が本市の出火原因の第1位となるのは、昭和35年以来で64年ぶりのことです。また、「こんろ」に関連した火災として、昨年の発生件数が8件と例年の倍の件数を記録したのが、着衣着火による火災です。着衣着火とは、何らかの原因により人の着ている衣服に炎が燃え移る火災のことですが、特にガスこんろの使用中に発生しているケースが多く報告されています。

寒い季節は、厚着のまま調理をしたり、卓上こんろを使用する機会も増えるなど、着衣着火による火災が起きやすくなります。防止のためのポイントは以下のとおりです。

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、裾や袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意する。(特に高齢者は、視覚機能の低下によりガスの炎の色が見えにくくなるのでより注意が必要です。)
- こんろを使う際は、鍋底から炎がはみ出さないように適切な火力に調整する。
- こんろのまわりは整理整頓し、こんろの奥には、調味料などの物を置かないようする。

以上のポイントにお気を付けいただくとともに、可能であれば、調理中は着火しにくい素材でできた防災品のエプロンやアームカバーを使用いただければと思います。

最後に、小松島出張所は、現在、庁舎の老朽化に伴う改築工事を行っており、新庁舎は令和8年4月から供用開始の予定です。工事車両の通行や騒音・振動の発生など、ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



「小松島みんなの食堂」の紹介

2024年3月10日オノックさんの支援を受け「小松島みんなの食堂」スタート。子供だけでなく「地域の交流の場として、月一度料理を提供。また、子供たちにとって料理を学ぶ場としても機能している。異なる世代や学区の子どもたちが一緒に料理や食事することで、自然な交流や新たなつながりを築く場を目指す。3月からは学習サポートを開始する。

📍開催日 毎月第二土曜日 11:00~14:00 📍場所 リノックビル2F(オノック奥)

📍会費 高校生まで無料 大人1人300円

📍主催者 家庭料理塾マゴノテ塾長 高橋 陽子

〔略歴〕2010年 自宅にて子ども手芸教室bobbin(ボビン)開講 小中学生に幅広く手芸の指導にあたる。

2017年 家庭料理塾マゴノテ開校 手芸のほかに子ども料理教室開講

2023年 仙台市教育委員会khb主催の子供屋台選手権 マゴノテの生徒と父兄と参加して見事グランプリ受賞。

広報委員会委員 荒井 早苗

町内逍遙

～その2(常盤台霊園)～



明治初期の日本は近代国家建設を目指す一方策として富国強兵を掲げ、国内の主要6都市に「鎮台」(陸軍の軍団)を設置しました。明治4年、仙台の向山・鹿落にも「仙台陸軍墓地」が設置されましたが、さらに墓地の拡張が必要となり、明治25年に現在地(小松島2丁目)に移設・改葬されました。爾後昭和28年、常盤台霊園と改称し、宮城県県の管理で現在に至っています。数千坪もある広々とした敷地の中に、戦没・病没者の墓などが建てられています。また、桜やツツジが季節の彩りを見せてくれる静謐な場所です。

この園内の西奥にロシア人の墓碑が一基建っています。なぜこの場所にあるのか疑問に思っていました。その謎解きの糸口は作曲家のベートーベンでした。彼の交響曲1番・2番・4番・8番はあまりなじみがなかったので、どうせのことなら1番から9

番までそろえてみようと思書館などでCD探しをしました。どうにか9番までたどり着いたとき、日本(アジアも含め)で最初に演奏された「第9」が徳島県鳴門市の板東俘虜収容所だったことを知りました。第一次世界大戦時、ドイツ・オーストリア兵約1000名が捕虜として収容されました。しかし、戦争の状況下にあっても「ハーグ平和条約(捕虜の人的待遇などを定めた国際法)」の遵守から、スポーツ・音楽・演劇などの様々な文化的活動が許されていました。そういう状況下での1918年6月1日の演奏が「第九」だったのです。実はこの史実と似た状況が仙台でもあったことを程なくして知りました。時は少しさかのぼり、日露戦争時です。明治38年3月、ロシア兵の捕虜約2000名が四国松山から移送されてきました。現在の仙台国立医療センター辺りに収容所を建てましたがそれでも足りず、市内の寺院でも収容しました。当時の仙台市長が「捕虜といえどもみだりに陵辱すべきにあらず」の通知を出したことで、彼らは自由な生活を送れたそうです(『宮城の百年』毎日新聞刊)。さらに感動的なストーリーが続きます。彼ら2000名のうち、不遇な死を遂げた兵士は1人もなく、全員仙台を離れて自国へ帰ることができたのです。ただ残念ながら一兵士のみが心臓病で亡くなりました。彼の死を悼んで常盤台霊園に手厚く合葬し、墓碑が建てられたのです。

何気ない日常に少し気を止めてみると、ヒト・モノ・コトが巡り巡ってつながりあっていることを改めて感じることができます。町内をゆっくり逍遙しながらいろいろ見・聞きしてスローライフを楽しみたいと思うこの頃です。

受賞

全国社会福祉協議会会長表彰 民生委員・児童委員功労 菅原 勲さま

編集後記

社協だより45号をお届けします。今回は青葉消防署小松島出張所井上所長に「家庭での火災予防」について書いて頂きました。ありがとうございます。私たち一人一人の注意で火災予防に努めましょう。我が地域に「子ども」食堂が開設されましたので紹介させて頂きました。高橋塾長ありがとうございます。社協だよりは高橋、大久保、荒井編集委員3人で取り組んでおります。よろしくお願いします。